

[003]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/4485660>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 3, 2021-06-30. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

編集後記

環境工学研究教育センターの発足 3 年目を迎え、ここに研究活動報告書第 3 号をお届けできることを嬉しく思います。本報告書はセンターの概要に始まり、各研究室の研究活動、センターとしての活動、そして研究・社会連携・国際協力・教育活動の業績一覧から構成されています。

昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症による未曾有のパンデミックの中、本センターの活動を進めて参りました。このような事態に陥ったことで「環境」「研究」「教育」とは何か、あるいはその意義について改めて考えさせられる機会が与えられた気がします。ある大学のアンケート調査では、コロナ禍で本格的に退学を考えている学生が 2%、退学を視野に入れている学生が 10%、休学を視野に入れている学生が 25%にも上るという結果があり、教員の立場からは大きな衝撃を受け、私自身も大学教育のあり方を見直すきっかけになりました。

一方で、コロナ禍にあっても研究・教育活動を止めるわけには参りません。オンラインベースにはなりましたが、授業、研究活動、学術会議を継続することができました。本センターでも研究交流会等が無事に開催することができました。それを可能にしたデバイスやテクノロジーは今や当たり前のものになっているものの、科学技術の進歩の賜物といえます。ニュートンはペストが大流行した最中、大学の閉鎖により思索をめぐらす時間を得たことで、微分積分や万有引力を発見したと言われています（諸説あるそうですが）。その期間は「創造的休暇」と呼ばれているそうですが、私たちもコロナ禍にあっても、しっかりと前を向いて創造的に活動することが大切だと感じます。

最後になりましたが、今春をもって本センター事務職員を退職された、境ツヤ子様には長年に渡り、本センターの業務に多大なるご尽力いただき、センター一同感謝の念に絶えません。今後も境様の益々のご健勝と末長いご多幸をお祈り申し上げます。

(赤松 記)